

がんリハビリテーション看護B	山 田 忍 教授
Cancer Rehabilitation Nursing B	新 谷 圭 亮 非常勤講師
	長 尾 充 子 非常勤講師
2 年次後期・がん看護専門看護師コース必修	服 部 万里子 非常勤講師
2 単位・60 時間	坂 野 元 彦 非常勤講師

【概要・目標】

特論Ⅰ～Ⅲ，及びがんリハビリテーション看護Aで学んだことを基盤に，がん患者・家族の各種の身体症状や苦痛を理解しQOLを高めるがんリハビリテーション看護について探求する。

【授業内容・スケジュール】

1. 化学療法による心毒性から心機能が低下したがん患者に対してのリハビリテーション医療を行うための評価方法について教授し，ディスカッションする(講義・演習：新谷・山田)。
2. 化学療法による心毒性から心機能が低下したがん患者に対するリハビリテーション医療について，実践を交えながら教授し，学生も実技を行いながらディスカッションする(講義・演習：新谷・山田)。
3. 化学療法による心毒性から心機能が低下したがん患者において，リハビリテーション医療から継続した看護支援に繋げるための目標設定と具体的な訓練内容について教授しディスカッションする（講義・演習：新谷・山田）
4. Activities of Daily Living(ADL)と Instrumental Activities of Daily Living(IADL)との違いと評価方法について教授し，ディスカッションする(講義・演習：坂野・山田)。
- 5.ADL.IADL 障害に対するアプローチの実際(実技)について教授し，継続した看護支援に繋げるために，家族を含めたリハビリテーション医療の目標設定と具体的な訓練内容，特に在宅療養に繋げるための看護の役割についてディスカッションする(講義・演習：坂野・山田)。
6. がん周術期(集中治療室)のリハビリテーション医療実践を交えて教授する(講義：坂野)。
7. がん周術期(一般病棟)のリハビリテーション医療について，実践を交え教授する(講義：坂野)。
8. がん周術期での早期離床，迅速に全身状態を回復させるためのリハビリテーション医療の必要性について教授する(講義：坂野)。
9. がん周術期での早期離床，迅速に全身状態を回復させるためのリハビリテーション医療における早期から多職種が関わる意義について教授し，多職種連携における看護の役割についてディスカッションする（講義・演習：坂野・山田）。
10. がんの骨転移による日常生活への影響と病的骨折を予防し，治療を継続しながら生活を支えるリハビリテーション医療について教授し，家族を含めたリハビリテーション医療の目標設定と具体的な訓練内容，看護の役割についてディスカッションする(講義・演習：坂野・山田)。
11. がんの骨転移による日常生活を支える装具，筋力強化訓練の実際，病変に合わせた日常行動，社会資源の活用について教授し，リハビリテーション医療の目標設定と具体的訓練内容，看護の役割についてディスカッションする(講義・演習：坂野・山田)。
12. がんの骨転移に対して放射線治療を施行されている患者のリハビリテーション医療の観察と評価方法について教授し，リハビリテーション医療の目標設定と具体的な治療内容についてディスカッションする(講義・演習：坂野・山田)。
- 13.がんの骨転移に対して放射線治療を施行されている患者のリハビリテーション医療の実際の

症例を示し、治療を継続しながら生活を支えるリハビリテーション医療について教授し、家族を含めたリハビリテーションの目標設定と具体的な治療内容、看護の役割についてディスカッションする(講義・演習：坂野・山田)。

14. 深部静脈血栓症(Deep Venous Thrombosis : DVT)の危険因子と発症の要因、予防方法、発症後のリハビリテーション医療について教授し、予防と予測を含む看護の役割についてディスカッションする(講義・演習：坂野・山田)。
 15. DVT を発症した症例を提示し、安全にリハビリテーション医療を行うプロセス、チーム医療の中でのリスク管理の方法について教授し、看護の役割についてディスカッションする(講義・演習：坂野・山田)。
 16. 悪性軟骨部腫瘍に対する集学的治療（手術治療，化学療法，放射線治療），リハビリテーション医療について教授し、看護の役割についてディスカッションする(講義・演習：坂野・山田)。
 17. 悪性軟骨部腫瘍を発症した症例を提示し、治療用装具，栄養サポート，褥瘡対策，AYA 世代への対応など多職種が連携して患者の能力の回復を図り，社会へ復帰するための看護の役割についてディスカッションする(講義・演習：坂野・山田)。
 18. 摂食嚥下障害があるがん患者のリハビリテーション医療における摂食嚥下障害の基礎訓練の重要性，栄養管理と筋力維持，口腔周辺の運動や感覚機能の回復について教授し，家族への支援を含む看護の役割についてディスカッションする(講義・演習：坂野・山田)。
 19. 摂食嚥下障害があるがん患者の症例を提示し，摂食による誤嚥のリスクを予防しながら安全に嚥下訓練を進めていく方法を教授し，学生も嚥下訓練を実践して，看護の役割についてディスカッションする(講義・演習：坂野・山田)。
 20. エンド・オブ・ライフにあるがん患者への緩和的リハビリテーション医療の実際を教授し，ADL が低下している患者の安全な移動方法，ポジショニング，ストレッチの方法と家族への支援を含む看護の役割についてディスカッションする(講義・演習：坂野・山田)。
 21. エンド・オブ・ライフにあるがん患者の症例を提示し緩和的リハビリテーション医療の実技を学生と教員で実践し，ポジショニング，マッサージ，呼吸困難感の緩和について手技を教示する(講義・演習：坂野・山田)。
 22. 食道がんの患者のリハビリテーション医療について嚥下訓練に加えて，呼吸訓練と呼吸方法，発声方法(食道発声法など)について教授し，家族への支援を含む看護の役割についてディスカッションする(講義・演習：坂野・山田)。
 23. 食道がんの患者の症例を提示して，リハビリテーション医療の実際を教授し，学生も呼吸訓練と呼吸方法，発声方法について手技を実践する(講義・演習：坂野・山田)。
 24. リンパ浮腫の発生機序，症状の評価方法について教授し，看護の役割についてディスカッションする(講義・演習：山田)。
 25. リンパ浮腫の改善を行う手技について，マッサージ方法，包帯圧迫法の実技を交え教授し，学生も実技を実践し手技を経験する(講義・演習：山田)。
 26. 医療と介護の連携および在宅療養でのリハビリテーション医療の必要性について教授する(講義：服部)。
 27. 医療と介護の連携および在宅療養でのリハビリテーション医療の実際について看護師と介護者との具体的な連携方法について教授し，家族を含めた看護の役割についてディスカッションする（講義・演習：服部・山田）。
-

28. 放射線治療を継続するがん患者におけるリハビリテーション医療の必要性について教授し、看護の役割についてディスカッションする(講義・演習：長尾)。
29. 放射線治療を継続するがん患者の症例を提示して、副作用対策へのセルフケアを高めるリハビリテーション医療の実践について教授し、看護の役割についてディスカッションする(講義・演習：長尾)。
30. 学生はこれまでの学びから、がんのリハビリテーション医療におけるがん看護専門看護師としての役割について文献を基にまとめ、プレゼンテーションを行いディスカッションする(演習：山田)。

【評価】

下記の事項について、総合的に判断して評価する。

- 1.がんプロ e-learning, 事前に提示する文献の読み込みとその理解状況（プレゼンテーションおよび意見交換） 60%
2. 出席状況と授業への取り組み 40%

【テキスト】

1. 配布資料
2. 宮越浩一　がんリハビリテーション実践マニュアル　メディカルビュー社 2021
3. 堀　正二、淡田修久　腫瘍循環器ガイド　Onco-Cardiology　メディカルビュー社 2018
4. 安達　仁：CPX/運動療法ハンドブック　中外医学社　2018

【参考文献】

1. 細川　舞　他：外来治療中の患者のQOLを支える、南江堂、がん看護、18（4）、2013.
2. 辻　哲也　他：がんのリハビリテーション、医学書院、2012.
3. 六学会共同：がんのリハビリテーション研修会資料、ライブプランニングセンター、2013.
4. 服部　万里子：図解で分かる介護保険のしくみ、日本実業出版社、2018

【その他】

- ・和歌山県立医科大学がんプロ主催「がんリハビリテーション看護インテンシブコース」の受講をすることが望ましい(全8回：修了証発行)。

連絡先：yamada-s@wakayama-med.ac.jp（山田）